

Q. 設備投資(2023年度実績・2024年度計画)について。

- ・ 2023年度の投資実績は46億円。国内で約22億円、海外で約24億円。
国内では、合理化に資する設備投資やDX関連投資を行ったほか、海外では、タイのワイパー能増対応や韓国での新製品対応に関する投資をメインに実施。
- ・ 2024年度の投資計画は75億円。国内で約35億円、海外で約40億円を計画。
国内では、引き続き合理化に資する設備投資やDX関連投資を行うとともに、海外では、インドやタイでの能増対応に応じた投資を計画。

Q. 2024年度業績予想の上期・下期バランスについて。

- ・ 上期4、下期6で考えている。2023年度に仕込んだ合理化案件や変動対応が、2024年度下期に効いてくるため。

Q. 5月15日に公表した報告セグメントの変更要旨(産業機器セグメントの再編)について。

- ・ 新中期経営計画における成長事業・新事業の拡大として、ライフサイエンス向け及びインダストリアル向け製品の拡大に注力する目的で、本年4月1日付で産業機器事業を再編した。
- ・ 従来の産業機器事業は4つに分類(精密機器・モーター・バイオ・ウレタン)していたが、以下内容にて再編・移管を行った。
「精密機器・モーター→機能品事業」、「バイオ→ライフサイエンス事業」、「ウレタン→防振事業」

Q. バッテリーホールドシート・放熱ギャップフィラー、ライフサイエンス事業について。それぞれの生産拠点並びに中期経営計画期間における売上目標について。

- ・ バッテリーホールドシートは、現在群馬工場にて製造しているが、中期的にはアメリカ拠点での製造を加えることも検討していく。放熱ギャップフィラーは、韓国フコクにて生産準備中だが、間もなく量産開始の予定。今後、更なる拡大方針にて検討していく。ライフサイエンス事業は、現在群馬第二工場の医療用クリーンルームにて製造している。現状の売上高は約10億円程度だが、中期計画においては更に20億円程度の積み増しを考えている。

Q. インダストリアル部門や EV 化対応などの新規事業について。今期から業績に寄与するもの、中長期的に業績影響が大きいものなどについて、具体的に説明してほしい

- ・ 今年度からインダストリアル専用の生産部門を新設し、主に空圧機器に使用するピストン系の摺動リング等の精密製品の生産が開始予定。生産開始にあたっては、これまでよりも自動化且つクリーンな環境下で一貫した生産ラインを作るコンセプトで進めている。具体的には、ゴムの加硫から仕上げ、検査・梱包まで完全自動化にするという構想にて進行中。これらの生産体制を構築することで、今年の末頃から業績寄与するものと考えている。

生産拠点については、まずは日本から開始していくが、同様にベトナムでの製品立上げ・拡販を行うことで、売上拡大に繋げていく。

以上